

**課題名 シカ柵（パッチディフェンス）の効果検証について  
（着手報告及び今後の検証計画について）**

**埼玉森林管理事務所 関 清孝**

**1 課題を取り上げた背景**

埼玉県は「第3次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）」を作成し個体数の調整をはじめとした取り組みを進めています。また、ニホンジカによる被害防止対策は、民国問わず喫緊の課題として各組織が有効な対策を求め取り組んできているところです。しかしながら、ニホンジカの食害に対する決定的な対策が確立できていないのが、現在の状況となっております。埼玉森林管理事務所が令和5年度の新植更新箇所において実施した被害防止対策について発表いたします。

**2 具体的な取組**

埼玉森林管理事務所は、令和5年度の新植更新を実施するにあたり、これまでどおりのゾーンディフェンス方式によるシカ柵設置で良いのかを、過去に設置したシカ柵の損害状況の確認とあわせて造林木の生育状況を観察しながらシカ柵の設置方法を検討してきました。シカ柵は、設置場所の状況により損傷程度の大きさも異なること、植栽木の生育状況についても、シカ柵が損傷し食害等が著しい箇所がある一方で、損傷はみられるもののしっかりと成林しているところが見受けられ分析に苦慮したことも事実です。

シカ柵の損傷が大きい箇所として

- ① 沢を横断した箇所
- ② 作業道を横断した箇所
- ③ 中腹部
- ④ シカ柵の上部・下部（転石による）

⑤ シカ柵の弛み（ニホンジカが飛び越える？）等でした。

これらを踏まえパッチディフェンス方式を採用するとともに、一定程度の面積にはシカ柵を設置せずに単木保護による更新を実施しました。単木保護については、昨年度の技術・交流発表会において埼玉森林管理事務所から報告させていただきましたが、保護資材の中で変形木となってしまうことも考えられることから、成長期や大雪後などには職員による見回りも今後定期的実施していくこととしています。

この取り組みとあわせ、施業を実施した地区において委託事業によるニホンジカ捕獲を実施しているところです。

**3 取組の結果**

令和5年度の事業として実施したばかりですが、シカ柵内は青々と植生が繁茂していることが確認されていますとともに、シカ柵の周りには多くのシカの足跡を確認することができました。また、単木保護を実施した箇所は造林木が順調に生育しておりますが、その周辺はニホンジカが食さない馬酔木が青々と生育しているもののほかの草本類はほとんど確認できないほど食害されている状況となっております。

また、委託事業によるシカ捕獲数は23頭を数えています。

**4 まとめ**

前述しましたとおり令和5年度の事業として実施しており、現時点におきまして有効な対策とまでは言い難い状況にあります。今後におきましても当該地の観察を続け損傷等の状況確認を行っていくとともに、被害防止対策の一助となる取組を進めていくことができればと考えております。